

巻頭言

大阪河 リハビリテーション大学 理事長

河 崎 茂

今回の紀要に認知症について特集号を編むとのこと、心より喜び、謹啓に値します。私は一人の精神科の医師として、長年に人間としての尊厳を失い、また、失いかげようとする彼女や彼らに愛の手を差し伸べるため、医療、福祉の面から孤軍奔走して参りました。この証として元厚生省の審議委員として意見を具申し、昭和57年に老人保健法の成立について努力しました。私の考えの結実として、全国に先駆けて昭和62年6月、医療法人河 会 老人保健施設希望ヶ丘を設立しました。また、わが国も高齢人口の増加と共に認知症患者も増加し、昭和63年老人性痴呆疾患治療棟の新設、重症痴呆患者デイケアの新設、平成元年老人痴呆疾患センターの創設、平成12年介護保険制度の施行、平成18年地域包括支援センターの創設、高齢者虐待防止法の施行などが矢継早に高齢者の医療、福祉が充実した感に見えました。しかし、経済成長の低迷、高齢者人口が増加し（平成17年総務省統計局の国勢調査の報告：わが国の人口1億2768万人の内、0-14歳 1758万人、15-64歳 8442万人、65歳以上2442万人）、認知症高齢者180万人といわれ、このような環境の結果、高齢者の福祉、医療の財政の面で改正を余儀なくされました。平成19年精神、障害保健で検討され、国庫補助金は廃止されました。しかし、実施要綱は継続し、都道府県事業として行うことは可能であります。このことから国庫財政が引き締められ、老人性認知症疾患の医療、福祉対策については困難な時期を迎えていますことから、我々は認知症患者の利益に繋がる提言をする必要があります。高齢者人口の増加と共に高齢者認知症も加速度的に増加し、大阪河 リハビリテーション大学の教職員も認知症患者に対して粉骨砕身の気持ちで愛の手を伸べることを希望します。

次に認知症について述べる前に、現在のわが国の大学について述べたいと思います。大学とは中国の古典、四書の中の「大学」第一章について記載しますと大学の道は、明德を明らかにするに在り、民を親しめるに在り、至前に止まるに在り（大学で総じて学ぶことは、輝かしい徳を身に着けて、それを世界に向けて輝かせることであり、そうした実践を通して民衆が親しみ睦みあうようにすることであり、こうして最高前の境地にふみ止まることである）。このような考えは我が国の大学のあり方に浸透し、智の殿堂、智の共同体の言葉で置き換えられ、従来、大学は学問をすれば良いと考えられてきました。しかし、大学についての考え方は先進国家（特に米国）の影響を受け、国公立大学も独立法人化し、正しく智の経営体となります。この考えに従い私立大学は智を売る（ベンチャー）という考えを徹する必要があります。少し横道し、日本の現状に触れたいと思います。今の日本の社会を見渡すと残酷、非情な事件のため、私の心を痛ますことが多くあります。このような事件の根底には日本社会の変容（学校教育、社会環境、家庭環境など）が影響していると考えています。私は常々医療に従事する者は、病める方々に慈愛を持って接することが私の心情としていました。大阪河 リハビリテーション大学の学生および職員の方をご存知だと思いますが、大学の校庭には大和の心（慈愛）

を表す灯籠を静置し、また、西洋の心（キリスト的愛）に満ちて彫刻（バイオリンを奏でる愛に富んだ美女）富永直樹作を玄関の正面に静置しました。これらは私の心情（慈愛）を表す気持ちであります。大阪河 リハビリテーション大学の学生が慈愛にみちて心根の優しい学生に育てるように教職員の方々にご指導することを希望します。

さて、最近の世相を通覧すると特に悪いニュースとして、米国の低所得者向け住宅ローン（サブプライムローン）に端を発した経済危機がわが国に波及し、私を暗い気持ちに落とし入れました。しかし、突如として昨年の暮れ、朗報が私の耳を震撼させてくれました。このニュースとは4名の日本人のノーベル賞受賞であります。物理学賞は 南部陽一郎 シカゴ大学名誉教授 米国籍。益川敏英 京都大学名誉教授、京都産業大学教授。小林誠 高エネルギー加速器研究機構特別名誉教授。化学賞は下村脩 ポストン大学名誉教授の4名の先生であり、日本人の心を持つ4名の先生がノーベル賞を受賞したことは、暗い世相にも拘わらず、私共日本人に歓喜に溢れる光明を照らしてくれたと思います。日本の戦後経済が疲弊し、沈みかかっていた時に湯川秀樹先生が物理学賞（1949年）を受賞し、国民に歓喜と勇気を与えた時代背景と似ております。今回の4名の先生の受賞は世界に向けて誇れる立派な業績を示したことで、先生方に感謝すると共に感涙に耐えられません。物理学賞を受賞した南部、益川、小林先生の業績は素粒子物理学領域、日本が得意とする理論物理学領域は想像を絶する独創的、且つ、私共には未知なる分野の研究であります。このような業績は天才的な頭脳のみならず、夢を追い、常に目的に沿って努力した結果で得た賜物であることと想像します。化学賞を受賞した下村先生は、GFP（緑色蛍光蛋白質）の発見は生命科学の発展に寄与し、また、先生の研究の足跡から推察しますと如何なる困難にめげず目的を目指し艱難辛苦をのり超えて努力しているお姿が見えます。この結果として、ノーベル賞受賞の栄冠を獲得されたと考えられます。私が思うに、先生方々の心は永遠に根付いた大和魂が宿っていることが私の目には見えてきます。私は4名のノーベル受賞者の足跡が大阪河 リハビリテーション大学の教職員に少しでも反映し、目的に邁進することを祈念します。

ここで大学のあり方および私の考えについて述べたのは、私の長年の夢である認知症患者に福音を与えることでもあります。認知症については研究途上の学問であることから、大学教職員が一丸となって、認知症の基礎研究（原因、予防、治療）、臨床研究（理学療法、作業療法、言語聴覚療法、福祉対策、疫学的研究など）を行うことで、私の夢が叶い、また、この考え方を成就することで智の経営体の考えを体得し、また、医療関係者が慈悲に富む大学の発展の礎になるとを考えていますので、私に協力し、意向を遂行するようお願いする次第です。